東小だより

皐月号

文責 校長
田﨑正明

教育目標　「ふるさとを愛し、夢に向かって頑張る子どもの育成～えがお・げんき・いのち輝く東っ子」

くまもと家庭教育十か条　第九条（地域全体での子育て）この子もあの子も　地域で子育て　みんなの宝

晴天、運動会

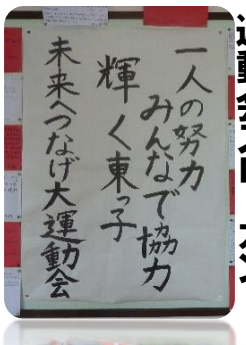
五月二十二日（日）晴天の下、保護者の皆様方に見守られながら運動会を実施することができました。開会式での一年生坂田真希さん、片山桃歌さんによる始めの言葉でスタートした運動会。十四種目に子供たちが雄姿を見せてくれました。今年の運動会のスローガンには「努力」と「協力」という言葉が盛り込まれ、「未来につなぐ」という言葉で強く締めくくられていました。児童会運営委員会の子供たちが練りに練って決めたものです。練習開始から二週間、スローガン通りに努力し、協力してきた子供たちでした。その間、日に日に、東っ子としての勇気が一人一人に現れ、大きく、強いカとなっていることを感じました。その姿に心をウキウキさせながら、当日を迎えました。その期待通りに、白団団長、綱代温心さん、赤団団長、大山結愛さんの二人が団を率いて、最高の力を発揮してくれました。最後は白団の勝利となりましたが、互いの頑張りをたたえ合える一日になり、東小の記念の日となった運動会でした。環境整備、準備等、多方面からご支援・ご協力いただきました保護者の皆様方には心より感謝申し上げます。皆様方の温かいご声援により、子供たちが力いっぱいの姿を披露できました。今後も、皆様方とともに子供たちをしっかり支えていきたいと思います。よろしくお願い致します。

※裏面には、運動会の東っ子の様子を掲載しています。ご参照ください。

「赤団団長　大山　結愛さんより」

運動会を振り返ってがんばったことが三つあります。一つ目は、団長としての態度を正すことです。誓いの言葉、エール交換、演舞と、言葉、振り付けなどに気を付け、見に来てくださった方々にとどくようにと思い取り組んできました。赤団の全員が練習以上に声を出してくれてとても満足しています。二つ目は、表現「集団行動」です。みんなと心を合わせて演技ができました。たくさん行進するほど、そろえるのが難しくなり、心配だったけど、上手にそろえることができてよかったです。三つめは、最後の運動会をやりとげることです。小学校最後の運動会で優勝することはできなかったけど、みんなと協力して練習から本番まで、やり遂げることができたので、とてもうれしかったです。みんなの応援、そして、がんばりを見て、私は、小学校最後の運動会を心から楽しむことができました。

運動会スローガン



「白団団長　綱代　温心さんより」

運動会で団長として、みんなが、がんばれるように一生けん命応援しました。エール交換は赤団に負けない気持ちで取り組みました。練習から白団全員で何度もくり返しました。昼休みも休まずがんばりました。優勝することができたのは、白団のみんなのおかげだと思います。運動会でがんばった協力と努力は、今後の生活に生かしていきたいです。運動会でのがんばり、協力、努力は優勝につながりました。六年生での最初の思い出です。開会式の緊張が不安につながりましたが、誓いの言葉を言えたことで、大きな自信になりました。種目の中で楽しかったのは、「親子のきずな」です。いい思い出になりました。閉会式の得点発表のドキドキはわすれません。「白団の優勝です。」という言葉を聞いたうれしさは忘れません。運動会で学んだことをこれから生かしてがんばりたいです。

家での自分の作り方

学校の柱となって頑張ってくれている六年生と、「こんな東小に」というテーマで、時間を共有しました。その一コマですが、家庭でも自分をつくる努力は必要だということになり、六項目の視点をもとに、自律した自分を作ることについて共通理解しました。一見すると簡単なことですが、完全に実行するには案外難しいものでもあります。積極性や自制心といった自分のコントロールが不可欠となります。取り組む中では困難さを感じることもあるかと思います。しかし、習慣化するまで継続し、自分の力としてほしいと願っています。ご家庭でも奨励され、お子さんへの称賛と激励をもってご支援いただければと思います。なお本件を含め、学校生活や学習のあり方について、六年生が全児童に向けて、集会での発表を予定しています。その様子については次号でお知らせします。

自分の作り方六か条

①：自分の事は自分でする
②：あいさつができるようになる
　※行ってきます・ただいま・いただきます・ごちそうさまでした
　おやすみなさい・おはようございます
③：お家の人と、よく話しをする
④：朝ご飯をお腹いっぱい食べる
⑤：充分な睡眠をとる
⑥：スマホ、タブレット、ゲームの使い方のルールを守る

いじめ根絶にむけて

いじめの根絶の鍵は、「未然防止」「早期発見」「早期対応」にあります。そのために視点を高く、視野を広くもち、子供たちの生活状況と人間関係を注視していくことに力を入れています。その際、「ちがい」をキーワードに、「今までとの変化」に立ち止まってみることが大切です。言葉遣い、表情、遊び方、あいさつの声、居場所等に子供たちの様子に違いを感じたら、まず対人関係に課題を抱いていないかを探り、必要に応じて面談します。子供たちが抱える課題は、自力で解決できる場合と大人が支援しなければならない場合があります。その見極めのために、「ちがい」を捉える努力、そして、子供たちが自己開示できる信頼関係づくりが大切であると考えます。いじめは、「どの子供にも起こりうる、どの子供も被害者にも加害者にもなり得る」という事実を踏まえ、東っ子の尊厳が守られ、東っ子をいじめに向かわせないための未然防止、早期発見にすべての我々大人が取り組んでいかなければならないと考えます。保護者の皆様方、地域の方々のご理解とご協力をお願いします。

目指す資質・能力～「元気いっぱい」と目標の関係について～

先日、子供たちへ目標の意味とその掲げ方について「ウサギとカメ」の話をもとに話しをしました。（以下その概要）

『ウサギとカメ』の話を知っているでしょう。山の頂上めざして競争した２匹の動物の話です。「油断禁物、自信過剰は身を滅ぼす」という戒めを与えてくれます。そこで、この話をもう少し掘り下げて考えてみましょう。なぜ、ウサギはカメに負けたのでしょう。またなぜカメはウサギに勝てたのでしょう。この問いを考えたとき、２匹の目標のちがいが大きく関わりを持ちます。ウサギの目標はカメに勝つことだったのです。ウサギはカメの動きを見て、そのスピードに合わせて自分のレースを進めていました。「カメには勝てる。カメよりも早くゴールに着きさえすればいいのだ。」という目標があったのです。逆にカメはどうでしょう。カメの目標は「ゴール」です。山頂のゴールにたどり着くことが目標となっていました。ウサギの速さやレースの進め方なんか頭にもありませんでした。自分がめざすゴールが大きく、しっかり見えていたのです。このように、同じレースに参加していた２匹でしたが、それぞれに目標がちがっていたのです。さらに見方を変えて考えてみると、２匹の見ていたものもちがっています。ウサギはカメを見ていました。カメは「…」。さて、何を見ていたのでしょう。それは、山頂のゴールです。２匹のめあて、目標のちがいが勝敗を分けました。カメの勝利はレースの本当の目標である「ゴールをめざすこと」に自分の力を最大限に発揮しようと努力した成果です。みなさん、大切なのは自分自身であり、物事の本質、つまり「本当の目的」なのです。目先のことや他人の振るまいに一生懸命になることは、自分が取り組むべきことを見失う結果となってしまいます。「今、自分がしなければならないことは何か。めざすことは何なのか」を自分自身に絶えず問いかけていくことが大事なのです。勉強も、生活も、遊びも何を目的にしているのかを考えてみることです。その「本当の目的」が見えている人はあせりもなく自分のペースで、自分自身を大切にしながら事を進められるはずなのです。目標を掲げること、そして、それに向かう自分の姿を考えてみることをすすめます。賢い東っ子なら必ずわかるはずです。

本校の教育目標を支える要素として「元気いっぱい」があります。元気は学校生活を送る上での子供たちの基盤となるものだと捉えています。元気いっぱい東っ子であるために、「目標の堅持」を掲げています。明確な目標があれば、その達成に向けて精一杯の力が発揮できるということです。